

建設業界 女性増へ講座

男社会の建設業を女性が働きやすい職場に変えようと、北九州市の建築会社が「けんちくけんせつ女学校」と銘打ったビジネス講座を4月に開設する。建設業などの経営者らに女性従業員を受け入れる職場づくりのノウハウを伝授するほか、軌道に乗れば女性求職者向けの講座も設け、技術習得などを支援。専門技術を持った「けんせつ小町」「ドボジョ」を目指す女性たちを後押しする。

北九州の会社、4月に開設

講座を設けるのは、建築設計・施工会社「ゼムケンサービス」(同市小倉北区)。籠田淳子代表(53)をはじめ社員7人中6人が女性で、仕事と家庭を両立できる柔軟な働き方を強みにしている。ただ、周囲には女性の入社を断る企業や、入社しても休みが取れず退社する女性が少なくないことから、現状を変えようと企画した。

経営者らを対象にした講座は、籠田代表らが講師を務め、現場への女性用トイレや更衣室設置などハード面の整備▽急に子どもが熱を出しても休めるように一つの仕事に複数の担当者を置くなどの態勢づくり▽女性に対する言葉遣いや接し方などを教える。社内教育の専門家なども招く。

受講企業が職場環境を整えた段階で、業界を目指す女性向け講座も開設する。

言葉遣い、更衣室… 職場づくり指南

受講生をインターンシップとして派遣し、現場で技術を学んでもらうほか、インターネット講義も活用。複数の専門技術を持つ「多能工」育成を目指す。半年―数年のさまざまなコースを検討している。

高齢化が進む建設業は数年後、「100万人規模の離職時代」(日本建設業連合会)を迎える。土木や建設業界で働く女性は近年「ドボジョ」「けんせつ小町」などと呼ばれ、国土交通省は女性就労者を2019年に20万人にする目標を掲げる。ただ17年の女性就労者はまだ11万人で、業界全体では男性が97%を占めている。

ゼムケンの鷺海奈緒子取締役(36)は「『男社会』のままでは建設業は存続できない。企業の意識変革から始めたい」と話す。同社0933(9331)0301。

(湯之前八州)